

件名： 明治維新150年に向けた取組みについて

担当課： 総合政策部 企画経営課 総務担当 (電話：083-934-2746)

明治維新150年に向けた取組みについて、下記のとおり報告します。

1 山口市シティセールス推進本部における取組みについて

(1) 推進本部について

設置時期：平成26年5月1日

設置目的等：別紙要綱のとおり

(2) 明治維新150年に向けた取組み

本日第1回推進本部会議を開催

協議内容

- ①「明治維新の策源地『山口』」を重点的に進めていく「シティセールス推進テーマ」に決定

※「明治維新の策源地」とは… **資料1**

- ②「明治維新150年記念事業推進部会」を設置し、施策横断的な取組みを推進

※会議資料 **資料2**

2 明治維新150年記念事業実行委員会における取組み

- 「明治維新の策源地・明治維新150年」をPRするロゴマークの作成

- ・河野康志実行委員長（株式会社マルニ社長）によるコンセプト等の説明

明治維新150年記念事業実行委員会とは…

山口市における民間主導の実行委員会。山口商工会議所に事務局を置く。

3 山口市における今後の取組み

- 実行委員会作成ロゴマークの活用例

- ・名刺、PR用のぼり、レノファ山口選手移動用バス掲示用ラッピングシート

※ロゴマーク等の資料につきましては、会見終了後配布いたします。

「明治維新の策源地」とは…

「長州（萩）藩の藩庁は萩で、廃藩置県で山口が県庁になったと思っていた。」といった声をよく聞く。歴史ドラマではあまり描かれることのない藩庁の移転。

文久3年（西暦1863年）4月16日、萩藩主・毛利敬親は、日帰りの湯治を名目として萩を発ち、山口中河原の御茶屋に入った。この行動は、攘夷の決行に備えての、城地選定が目的だった。この時点における城地の最終候補としては、宮野と神峯（鴻ノ峰）麓説とがあったようだが、種々検討の結果後者で話がまとまり、同年7月には「山口移鎮」が宣言された。

実は、これより先の文久2年7月6日、京都の河原町藩邸で開かれた御前会議で、藩の方針が「公武合体策」から「尊王攘夷策」へと、大転換が図られ、これを受け、移転の準備は水面下で着々と進められていた。山口城（藩庁）の構えは、「八稜城」といい函館の五稜郭とおなじ西洋式の城郭であったとされる。

「策源地」という言葉は、もともと軍事用語。その意味するところは「前線の作戦部隊に対して、必要物資の補給などの兵站（へいたん）（Logistics）支援を行う後方基地」とある。「戦争の玄人は兵站を語り、戦争の素人は戦略を語る」という格言があるように、部外者の目からはあまり目立たないかもしれないが、実態としては中核を占める、戦の勝敗を決するととても重要な役割を、当時の山口は担っていたといえる。

かつての藩庁は、廃藩置県により山口県庁となったが、本瓦葺の堂々とした藩庁時代の表門や、堀の一部は、今なお維新の名残りを留めている。また、英国に渡った長州ファイブの伊藤博文と井上馨の二人が、帰国後最初に藩内で滞在した場所として知られる萬代家の離れ座敷「十朋亭（じっぽうてい）」、さらに移築されてはいるが、藩庁内で王政復古の大業について密議を凝らした場所とされる茶室・露山堂（ろざんどう）や、薩長連合の密議を重ねた建物とされる旧家・安部家ゆかりの枕流亭（ちんりゅうてい）など、市内の各所には、当時の遺構や伝承地が数多く残り、大切に伝えられている。

なお、「山口市史 各説篇」（昭和46年 山口市）において、「維新動乱の策源地山口」と題した項目がある。

1 山口市シティセールス推進本部の設置について

(1) 推進本部設置の目的

「シティセールス」とは、「交流人口の増加」「産業の活性化」「定住人口の増加」などを目的に、まちづくりの観点から、さまざまな価値（人、モノ、お金、情報など）を獲得するために市内外に働きかけ、取り込み、生かしていく一連の活動として、長期的・戦略的に進めるもの。

本市では、シティセールスを効果的に進めていくため、「基本方針」や「推進するテーマ」などについて、「庁内意識の統一」や「情報共有」を図り、各課の実施するシティセールス関連事業に関する調整、連携を行う組織として、「山口市シティセールス推進本部」を設置した。

今後は、推進本部を中心に効果的なシティセールス事業の推進を目指すとともに、情報誌やホームページなど様々な媒体を活用しながら、山口市の魅力を広く市内外に発信していく。

(2) 推進本部の役割

●シティセールスの推進に関する方針の決定

本市のシティセールスの方向性や進め方等について決定

●シティセールス推進テーマの設定

本市の「都市としての魅力の向上」や「対外的な認知度やイメージの向上」、「市民の本市に対する誇りや愛着心の醸成」を目的に、歴史・文化、自然等といった本市の地域資源から、独自性や知名度等を考慮してシティセールス推進テーマを設定。

「明治維新の策源地」「湯田温泉」「大内文化繁栄の地」「日本のクリスマス発祥の地」「車えび養殖発祥の地」「SL が走るまち」「山口七夕ちょうちんまつり」「中原中也生誕の地」「教育・子育てのまち」等が挙げられる。

●シティセールス推進テーマのブランド化に向けた取り組み

推進部会による、推進テーマのブランド化に向けた事業化の推進

推進部会とは…

重点的に進めていく推進テーマに対し、必要に応じ、推進本部において関係各課で構成される部会を設置するもの。部会長は、構成各課において、協議の上決定、事務局は企画経営課に置く。

会議の開催は随時。推進テーマの事業化に取り組む。

2 山口市シティセールス基本方針（案）について

(1) シティセールス3つの目標

- 本市の都市としての魅力の向上
- 対外的な認知度や知名度の向上
- 市民の「ふるさと山口」に対する誇りや愛着心の醸成

(2) シティセールス基本戦略

以下の3つの戦略を効果的に展開しながら、シティセールス推進テーマを本市の都市ブランドとして構築し、「交流人口の増加」「産業の活性化」「定住人口の増加」を目指す。

都市ブランド確立戦略

シティセールス推進テーマのブランド化に取り組み、本市の優位性を都市イメージとして確立するとともに、新たな魅力を創造する。

イメージアップ戦略

確立した都市ブランドについて、市外の方から、「住んでみたい」「訪れてみたい」と思われるよう、様々な媒体を活用しながら、戦略的な情報発信を行う。



シビックプライド醸成戦略

シティセールスに関わる人々(市民、企業、市の職員等)一人ひとりが、山口市に愛着を持ち、住んでいることを「誇り」や「喜び」に思うことが出来るよう、地域資源(都市ブランド)の価値を、市内に向け戦略的にPRする。さらにこれらの活動を通じて、ホスピタリティの向上、おもてなし意識の醸成につなげていく。



毎年秋に開催される「アートふる山口」



国宝 瑠璃光寺五重塔



SL やまぐち号

3 推進テーマの設定及び推進部会の設置について

(1) 重点的に取り組む推進テーマの設定

平成 30 年が明治維新 150 年を記念する年にあたることから、「明治維新の策源地『山口』」を本市が重点的に進めていくシティセールス推進テーマとし、「山口といえば明治維新の策源地」を山口市の都市イメージとして確立し、都市ブランドとして構築することを目指す。

明治維新の策源地 ー山口

「長州（萩）藩の藩庁は萩で、廃藩置県で山口が県庁になったと思っていた。」といった声をよく聞く。歴史ドラマではあまり描かれることのない藩庁の移転。

文久 3 年（西暦 1863 年）4 月 16 日、萩藩主・毛利敬親は、日帰りの湯治を名目として萩を発ち、山口中河原の御茶屋に入った。この行動は、攘夷の決行に備えての、城地選定が目的だった。この時点における城地の最終候補としては、宮野と神峯（鴻ノ峰）麓説とがあったようだが、種々検討の結果後方で話がまとまり、同年 7 月には「山口移鎮」が宣言された。

実は、これより先の文久 2 年 7 月 6 日、京都の河原町藩邸で開かれた御前会議で、藩の方針が「公武合体策」から「尊王攘夷策」へと、大転換が図られ、これを受け、移転の準備は水面下で着々と進められていた。山口城（藩庁）の構えは、「八稜城」といい函館の五稜郭とおなじ西洋式の城郭であったとされる。

かつての藩庁は、廃藩置県により山口県庁となったが、本瓦葺の堂々とした藩庁時代の表門や、堀の一部は、今なお維新の名残りを留めている。また、英国に渡った長州ファイブの伊藤博文と井上馨の二人が、帰国後最初に藩内で滞在した場所として知られる萬代家の離れ座敷「十朋亭(じっぽうてい)」、さらに移築されてはいるが、藩庁内で王政復古の大業について密議を凝らした場所とされる茶室・露山堂(ろざんどう)や、薩長連合の密議を重ねた建物とされる旧家・安部家ゆかりの枕流亭(ちんりゅうてい)など、市内の各所には、当時の遺構や伝承地が数多く残り、大切に伝えられている。

(2) シティセールス推進部会の設置

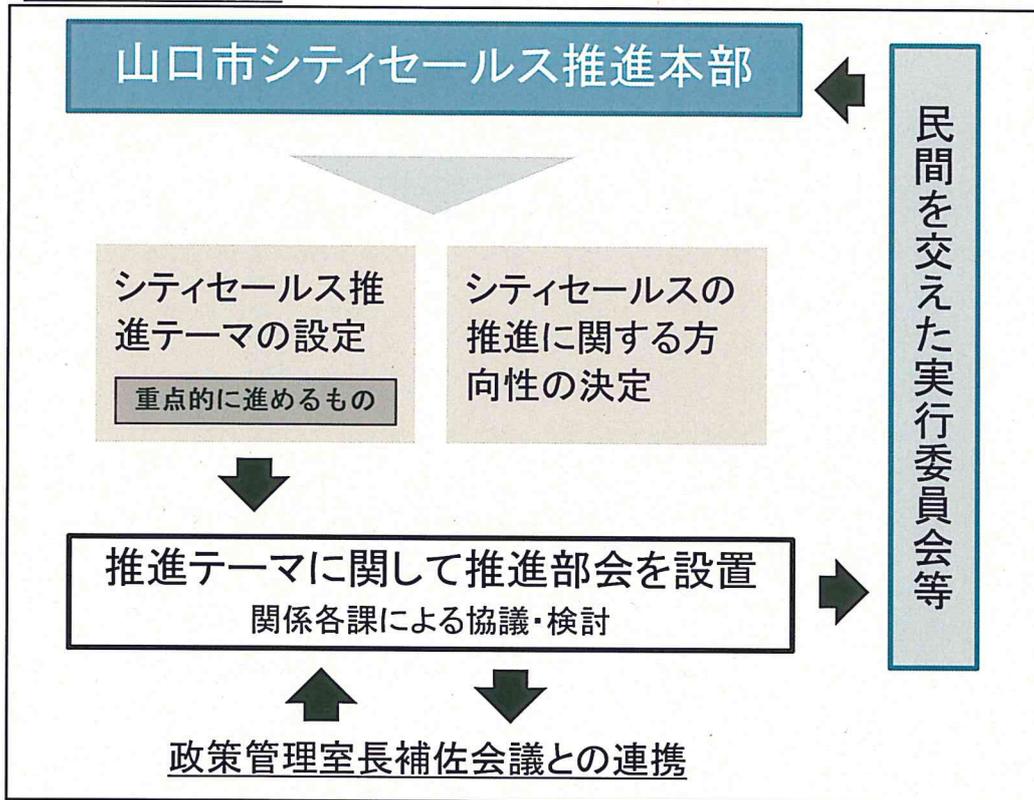
明治維新 150 年記念事業推進部会の設置

平成 30 年に向けて明治維新 150 年記念事業を推進するため、「明治維新 150 年記念事業推進部会」を設置する。

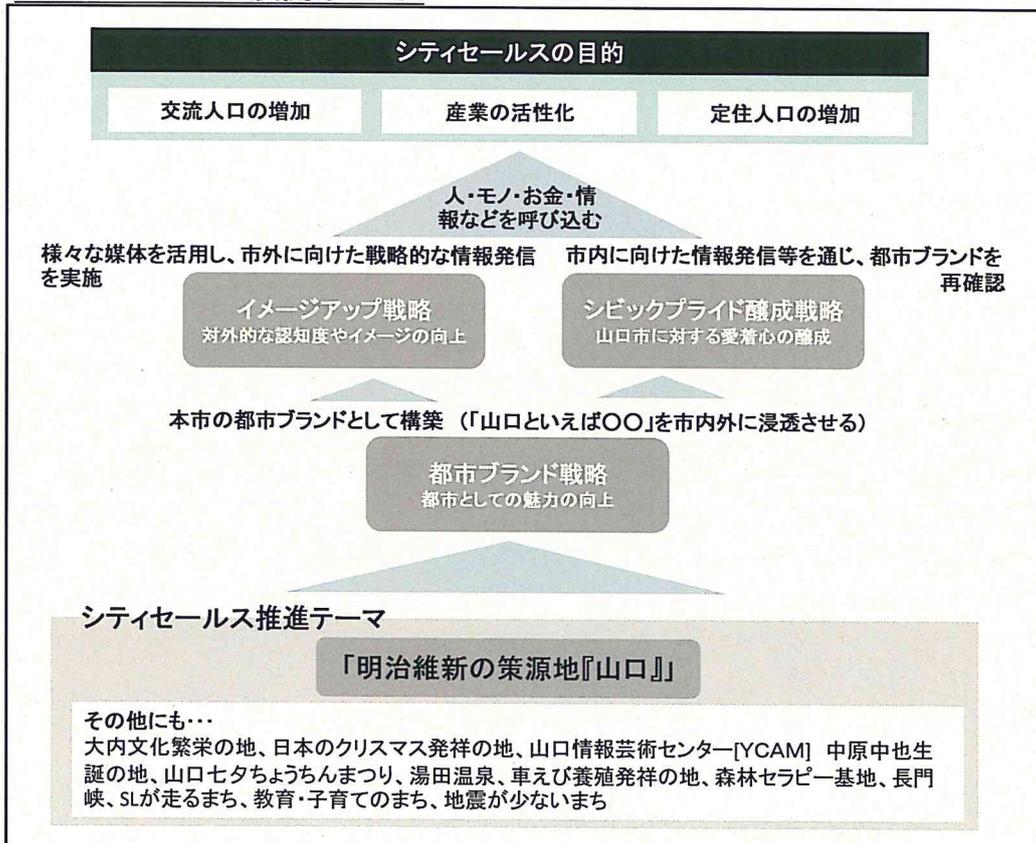
当面は、企画経営課、文化政策課、観光課、文化財保護課で構成し、必要に応じて関係課を加えるなど柔軟に対応する。

また、推進にあたっては、毎月定期的開催される政策管理室長補佐会議とよく連携をとりながら、庁内の情報共有、連携強化に努める。

推進本部実施体制



シティセールスの展開イメージ



4 今年度の取り組み

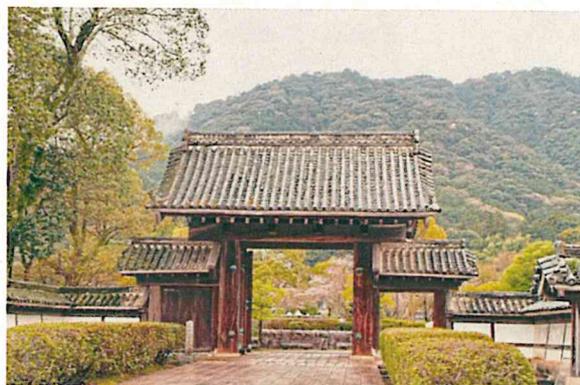
平成 26 年度当初予算における明治維新 150 年関連事業

都市ブランド確立戦略

●明治維新版山口ものがたり事業【文化政策課】

本市に所在する幕末・明治維新に関連した史跡等の情報をデータベース化し、市内外に情報発信可能な状態に整備します。あわせて、講習会や現地研修を行いながら、地域資源を活かしたまちづくり戦略の検討につなげます。

- ・講習会の開催
- ・「明治維新版山口ものがたり史跡等ガイドブック(仮称)」の編集発行等



旧藩庁門

●明治維新 150 年記念事業【観光課】

NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」放映(平成 27 年 1 月開始)や明治維新 150 年(平成 30 年)に向け、本市における観光客のおもてなし体制や環境整備、キャンペーンやイベントの実施、情報発信等を重点的に展開します。

- ・菜香亭における企画展示
- ・萩往還のサイン整備等



山口市菜香亭で開催された明治維新関連パネル展

●観光ブランド創出事業【観光課】

「明治維新」をテーマに、観光ブランドの創出や既存観光資源の高付加価値化に取り組み、都市のイメージアップを図ります。

- ・明治維新の歴史資源を生かした回遊促進事業等

イメージアップ戦略

●シティセールス推進事業【企画経営課】

情報誌やホームページ、山口七夕会やふるさと納税など様々な媒体等を通じて、シティセールス推進テーマの情報発信に取り組みます。

- ・レノファ山口と連携して、移動用バスに明治維新 150 年を PR するラッピングシートを掲示するなど、シティセールス事業を実施。



情報誌「彩都山口」

● 広報宣伝事業【観光課】

「明治維新の策源地『山口』」について、多様な媒体を利用し、観光関係団体と連携した効果的な広報宣伝を実施します。

- ・レノファ山口と連携した対戦地での観光情報の発信等
- ・全国版の観光雑誌を通じた明治維新関連史跡の紹介等



市役所ロビーにてレノファ山口を PR

● 観光キャンペーン開催事業【観光課】

イベント会場・駅・街頭などで、明治維新をテーマとしたキャンペーンを効果的に行い、本市の観光資源を積極的に情報発信します。



ゆるきゃらカップ in 鳥取砂丘



美東サービスエリアにおける
キャンペーン活動

シビックプライド醸成戦略

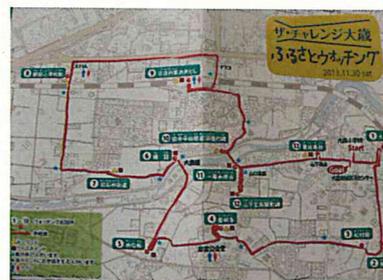
● 広報紙発行事業、放送・新聞等広報事業【広報広聴課】

市報や市広報番組等により、明治維新に関する史跡や明治維新 150 年関連事業の情報提供等を実施します。



● 地域の個性を生かす交付金事業【協働推進課】

明治維新関連資源の再整備や情報発信など郷土愛や地域の絆を育む、地域の特色を生かした事業を実施する地域に対し、地域づくり交付金の加算を実施します。



ザ・チャレンジ 大歳ふるさとウォッチング

山口市シティセールス推進本部設置要綱

(設置)

第1条 本市におけるシティセールスの推進を図るため、山口市シティセールス推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

(組織)

第2条 本部に、シティセールス推進本部長、副本部長及び本部員を置く。

2 シティセールス推進本部長（以下「本部長」という。）は、市長をもって充て、副本部長は副市長をもって充てる。

3 本部員は、別表1に掲げる職にある者をもって充てる。

(職務)

第3条 本部長は本部を統括する。

2 副本部長は本部長を補佐し、本部長に事故があるときはその職務を代理する。

3 本部員は、本市のシティセールス推進に向け、関係部局との調整及び連携を行う。

(会議)

第4条 本部長は、推進本部会議を招集し、本部長がその議長となる。

2 前項の推進本部会議は、第2条第3項の本部員をもって構成する。

(所掌事務)

第5条 本部の所掌事務は、次のとおりとする。

(1) 本市におけるシティセールスの方針の決定に関すること。

(2) シティセールスに係る庁内関係部局との調整及び事業の推進に関すること。

(3) 前2号に掲げるもののほか、本部の設置目的を達成するために必要な事項に関すること。

(推進部会)

第6条 本部は、シティセールスの推進に際し、必要に応じて、関係課から構成される推進部会を設置することが出来る。

(庶務)

第7条 本部の庶務は、企画経営課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は本部長が定める。

附 則

この要綱は、平成26年5月1日から施行する。

別表1（第2条関係）

教育長、上下水道事業管理者、総務部長、総合政策部長、地域振興部長、市民安全部長、環境部長、健康福祉部長、経済産業部長、都市整備部長、ターミナルパーク整備部長、上下水道局長、消防長、教育委員会事務局教育部長、北部振興局長、南部振興局長、参与

[基本型 Aタイプ]



明治維新策源地 山口市

明治維新150年 2018年

“はじまり”を記念するデザイン

明治維新を近代日本の幕開け、新しい時代のはじまりとして捉え、「はじまり」「スタート」「発展」「上昇」などのイメージを具現化したモチーフ「朝日」をベースに、明治維新150年の「一・五・〇」の三文字を意匠化しました。150年の区切りは“次の時代へ向けてのはじまり”でもあるという想いも込められています。

「オリジナル・本物」であることを示す落款印（絵画や書などで作者の署名代わりに使われる印）風にデザインし、各種グッズや広報物に展開した際、このロゴマークが入ることによって正規・正式なものであることを示す“お墨付き”としての役割も果たすものとなっています。

[バリエーションA 横組]



1868-2018

明治維新策源地 山口市

明治維新150年 2018年

[バリエーションB 縦組]

1868-2018



山口市
明治維新策源地

明治維新150年
2018年

[基本型 Bタイプ]



明治維新150年 2018年

明治維新策源地 山口市

[ネガティブ版 英文タイプ]

<p>1868-2018</p> <p>150th Anniversary The Meiji Restoration</p> <p>明治維新150年 2018年</p>			
---	---	---	---

[各種アプリケーション展開例]



角2封筒



名刺



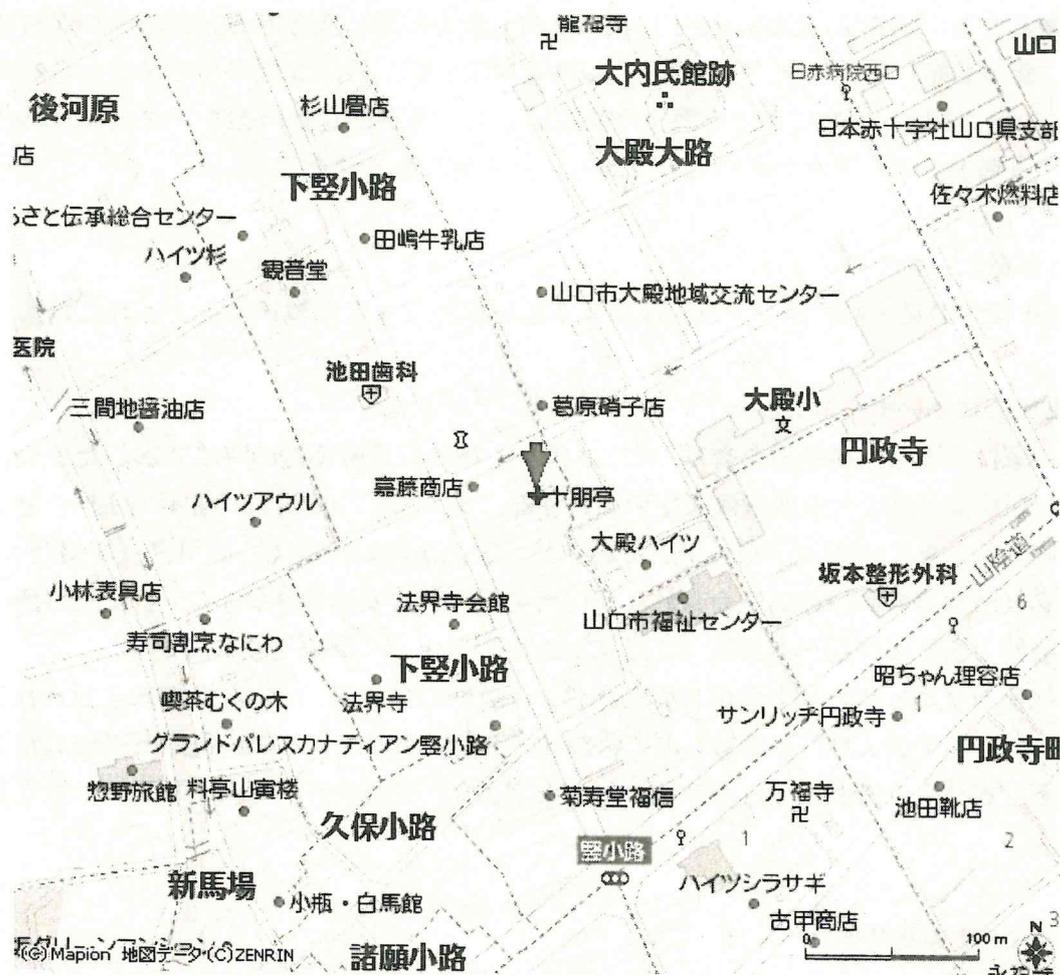
のぼり旗



バスマーキング(イメージ)

萬代氏寄附申出物件概要

① 位置図



② 寄附申出物件平面図

別紙参照（赤線で囲んだ部分。黒線で囲んだ部分は平成15年度に寄附済。）

- ・土地・・・1, 266.58㎡
- ・家屋・・・延べ床面積493.34㎡
- ・母屋・・・明治時代、豎小路を挟んで向かい側（現在の株式会社ヤマコー敷地）にあった本宅の離れ・茶室として建っていた。大正初期に現在の場所に移築され、後に萬代家の母屋として使用された。
- ・旧藤井商会・旧山口工業写真・・・幕末に萬代家の本宅があった場所。

③ 十朋亭について

山口市指定文化財(史跡・昭和57年3月2日指定)。山口の旧家萬代家の離れとして江戸時代後期に建てられたと考えられる。

十朋亭の名は、滞在した大阪の儒学者・篠崎小竹（しのぎきしょうちく）に3代当主萬代利兵衛英備（ばんだいりへえひでのぶ）が頼んで、命名されたものである。萬代家

はしばしば勤王の志士たちの活動を援護していたので、十朋亭には常に多くの志士が集まった。元治元年(1864)伊藤博文が洋行から帰った時もこの十朋亭を宿とし、翌日井上馨とともに政事堂に出頭、藩主に謁見復命したと記録に見られる。このほか周布政之助、桂小五郎、高杉晋作、久坂玄瑞、山縣有朋などがしばしば来宿したと伝えられている。十朋亭は、山口における明治維新遺跡として重要な意義があり、また江戸時代の民家建築としても価値の高いものである。(文化財指定調書より)

④ 杉私塾について

吉田松陰の兄・杉民治(すぎみんじ)が塾を開いて青年に教授したとされる建物。

⑤ 萬代家について

萬代家は代々醤油醸造業を営み、特に3代当主萬代利兵衛英備の時に発展したといわれる。利兵衛が建てた十朋亭は藩庁の山口移転に際して、「御用宿」(藩士の住居)として用いられ、多くの志士が訪れた。なお、萬代家は藩の財政機関の御用達(御用商人)や町奉行所建築の御用達に任命され、5代当主萬代利兵衛輔徳(すけのり)は長州藩の利殖機関である山口越荷方会所(こしにかたかいしょ)の会頭を務めていた。

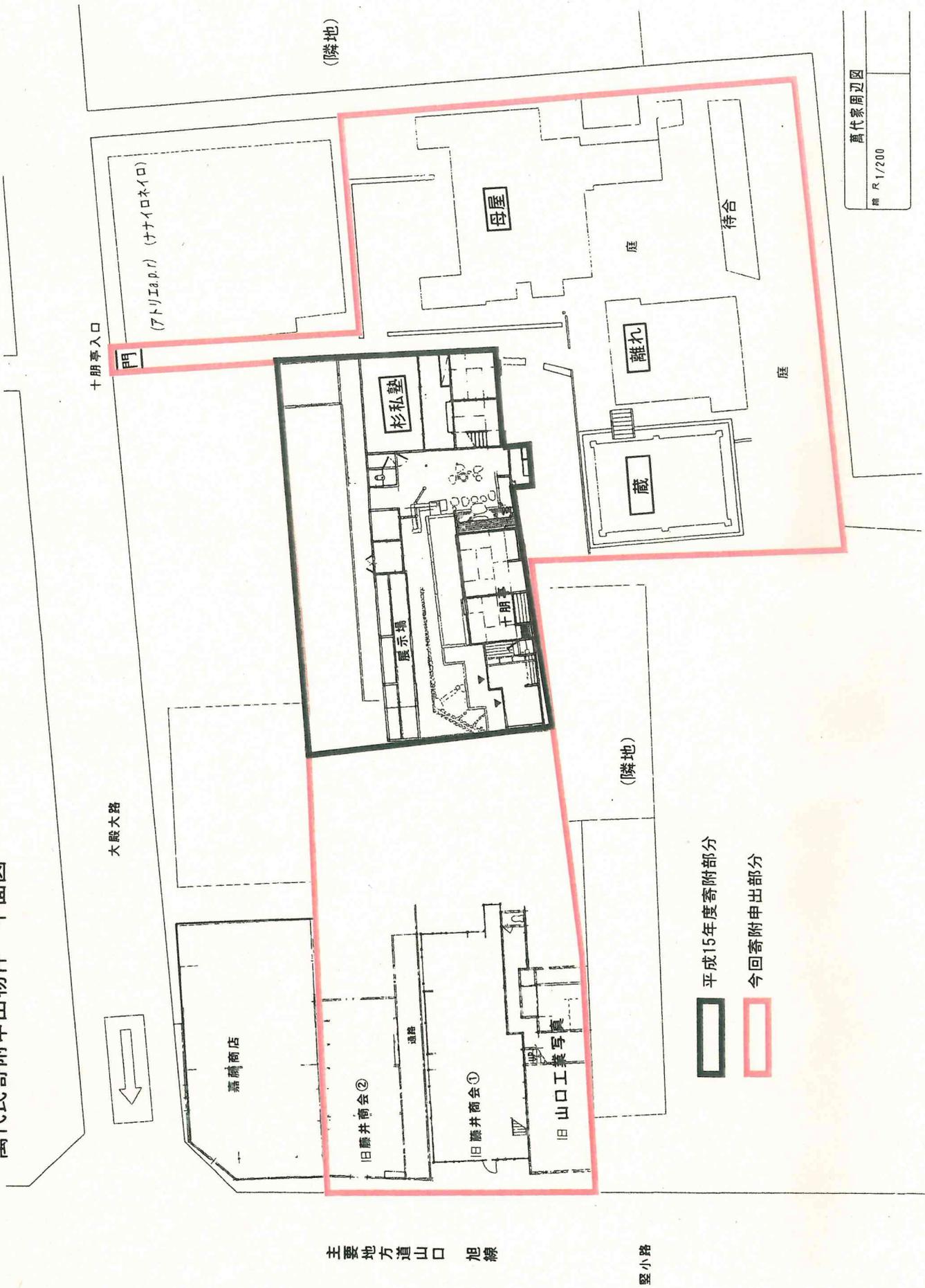
萬代家当主は6代の利七が山口町会議員、吉敷郡郡会議員、山口電燈株式会社初代社長、7代の利介が山口町会議員、山口醤油株式会社初代社長、8代の亀四郎が山口市会議員及び初代市会議員長、山口県会議員などを務めた。現在の当主萬代一平氏は9代に当たる。

⑥ 平成15年度寄附について

平成15年11月に十朋亭及び周辺土地・建物(別紙参照)、関係資料を寄附された。平成16年7月より十朋亭・展示場を公開している。

- ・土地・・・385.2㎡
- ・建物・・・十朋亭・杉私塾・展示場・倉庫・物置 延べ床面積281.28㎡
- ・関係資料・・・411点

萬代氏寄附申出物件 平面図



主要地方道山口 旭線

堅小路

明治維新史跡(山口市指定史跡)

十朋亭

じつ ぼう てい

十朋亭の由来

十朋亭は江戸時代末期に醤油業を営む萬代家の離れとして建てられました。建築当時は座敷一間であったと考えられています。この頃、主屋は十朋亭と豎小路の間に建てられました。建築当時の当主は三代目の萬代利兵衛で、この三代目の時に家業は大いに栄えたといえます。

十朋亭の命名は大阪の儒学者篠崎小竹によるものです。篠崎小竹は萬代家の商号「亀屋」にちなみ、易経の「あるいはこれを益す。十朋の亀も違う克わず」より命名しました。「その成功のほどは、非常に高価な亀で占ってもはずれることはない」という意味です。

幕末の文久三(一八六三)年、長州藩主毛利敬親は、攘夷に備えて藩府(政事堂)を萩から山口に移転しました。このとき萬代家が藩臣たちの「御用宿」(宿泊所)となったため、この十朋亭には様々な志士が入り込みました。このような由来により、昭和五十七年に山口市の重要な明治維新史跡として市指定文化財になりました。



伊藤博文・井上馨寄書の大しやもじ

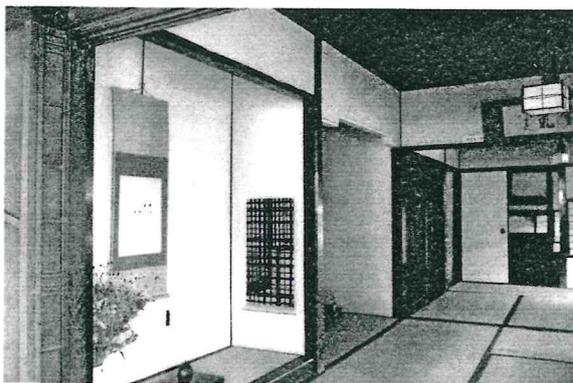
この大しやもじは、六代・利七が明治二十八年(一八九五年)二月に日清戦争の大本営を訪問した際、総理大臣・伊藤博文から贈られたものです。

当時大本営は広島にあり、明治天皇や伊藤博文を始めとする政府高官も広島にいました。利七は山口町会議員で、山口町の代表として町長と共に訪れています。大しやもじは伊藤博文との対面後、利七の宿泊所まで届けられましたが、「敵島の風雲は幾変遷」の「遷」が漏れていたため、翌日書き加えてもらったようです。

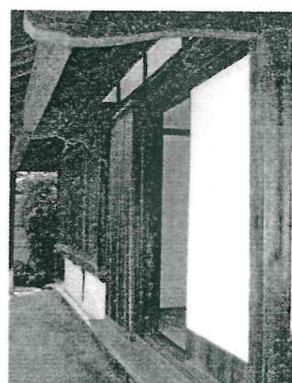
この翌年の明治二十九(一八九六)年四月、井上馨が還暦の祝いのため山口に帰ってきました。このとき「井上馨三遊亭円朝寄書」の書かれた宴会で、この大しやもじの事を聞いた井上馨は、それなら自分もと余白に漢詩を書き加えたそうです。



伊藤博文と井上馨のつながりや、両者と萬代家のつながりを感じさせる資料です。



「十朋亭」室内



「十朋亭」外観

伊藤博文一行書

萬代翁の還齡を寿ぐ

南山の寿を賦じ北海の

樽を開く

春歌山人博文

運動に参加しました。文久二(一八六二)年には、高杉晋作・久坂玄瑞・井上馨などとともに東京品川のイギリス公使館の焼き討ちを執行しました。

文久三(一八六三)年に英国に留学して開国論に転じ、翌年の元治元(一八六四)年に四か国連合艦隊の下関砲撃を知りて井上馨と共に帰国、講和を行いました。

維新後は新政府の要職を歴任し、明治十八(一八八五年)、初代内閣総理大臣となりました。明治四十二(一九〇九)年、満州視察の際、ハルビン駅で暗殺されました。

伊藤博文は総理大臣となつてからも萬代家との関係を保ち、この掛軸だけでなく、明治二十四(一八九二)年の五代利兵衛の古希の祝いにも、掛け軸扁額が贈られました。

萬代家では、偉くなつても気さくで、温かい気持ちの持ち主だったとい伝えられています。



ようこそ、『十朋亭』においで下さいました。

この『十朋亭』は、平成八年から「アートふる山口」にて、毎年多くの皆さんに見て頂いて参りましたが、平成十五年十一月に萬代家から山口市へ寄附を致しまして、本年七月より一般公開されております。幕末から維新にかけての山口の歴史を、少しでも肌で感じていただければ幸いです。ご来館ありがとうございます。

萬代 一平

